

トラック輸送情報（平成18年1月分）

平成18年3月31日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：高橋、荒木、荒井 内線28315

直通：03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

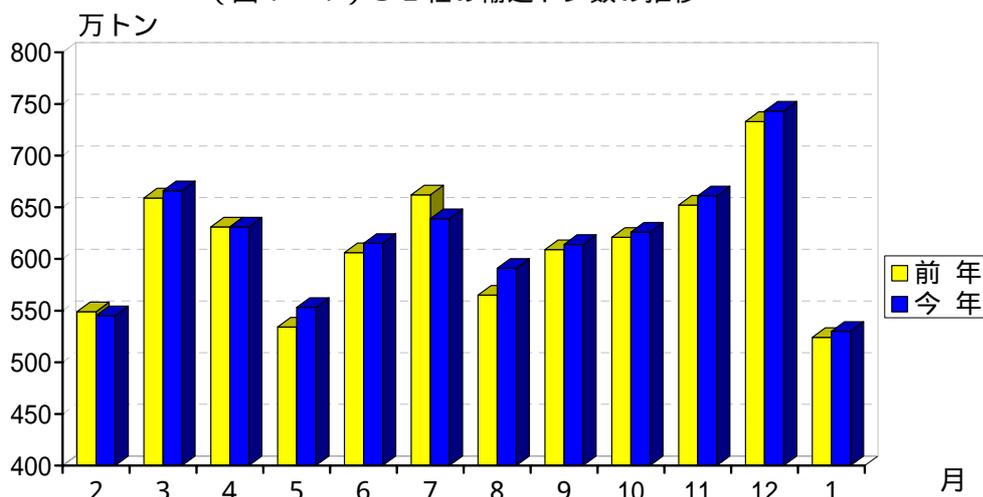
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、5,299,099トンで、前月と比べ、総輸送量が約213万トン減少したため、前月比71.3%（季節調整済み100.8%）、前年同月と比べ、約6万トン増加したため、前年同月比101.2%の実績であった。

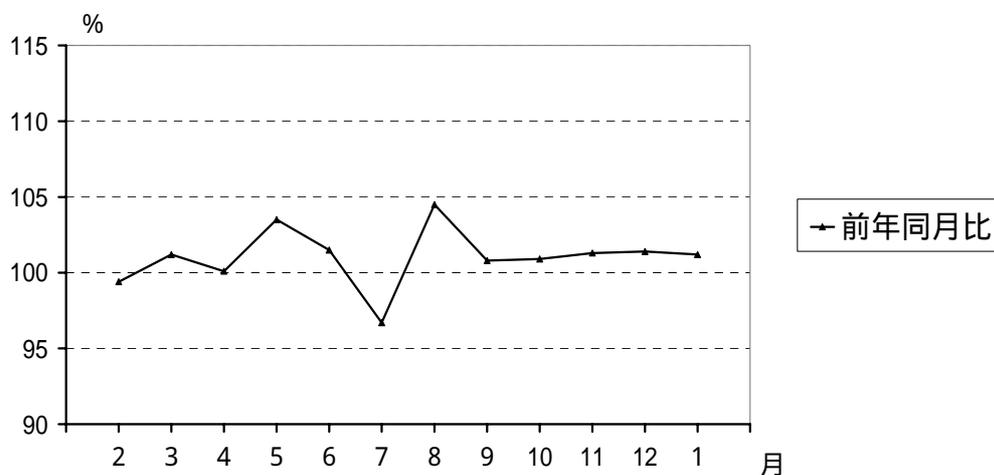
なお、平均稼働日数は21.7日で、前月と比べ1.7日の減少、前年同月比では0.1日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、244,198トンで、前月と比べ、約7万3千トン減少したため、前月比76.9%、前年同月と比べ、約2千トン増加したため、前年同月比100.7%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

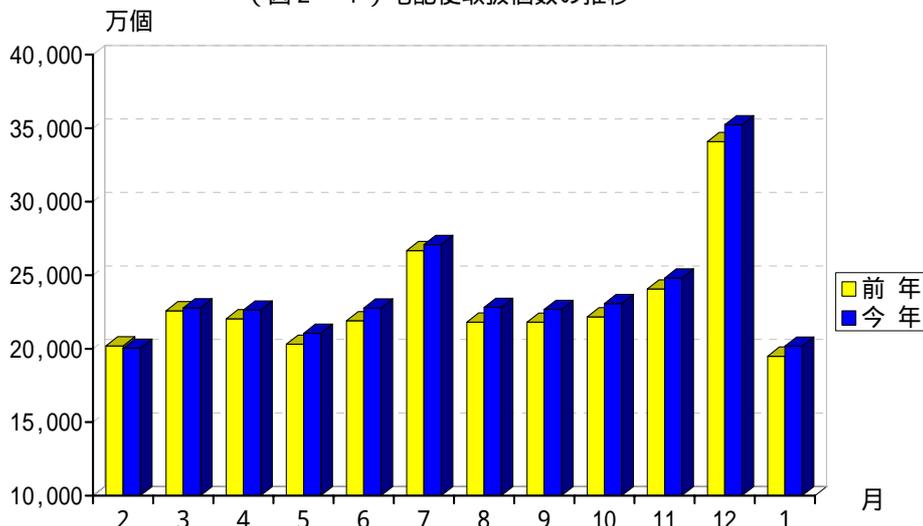


(2) 宅配便の概況

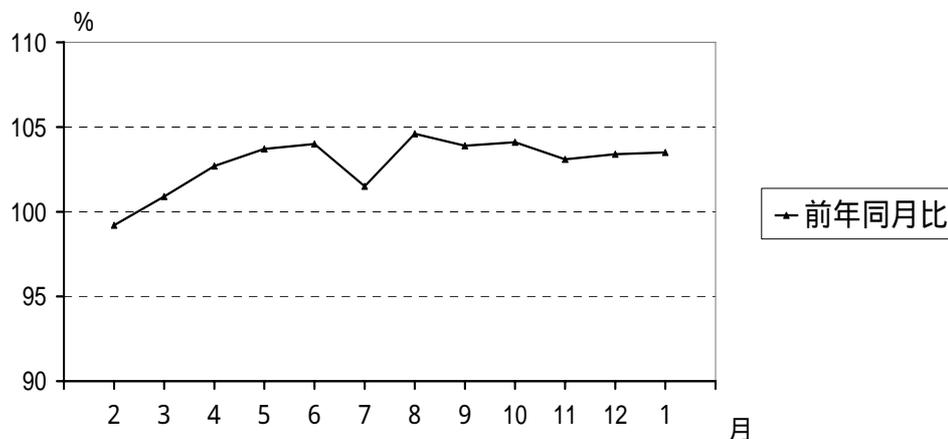
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、201,724 千個で、前月と比べ、約 1 億 5059 万個減少したため、前月比 57.3% (季節調整済み 107.6%)、前年同月と比べると、約 683 万個増加したため、前年同月比 103.5%の実績であった。(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

(注)平成 17 年 2 月より調査対象のうちの 1 社が宅配便の扱いを中止したため、宅配便調査対象が 19 社となっている。なお、当該事業者の宅配便におけるシェアが小さく(平成 17 年 1 月で全宅配便個数の約 0.02%)、影響が小さいことから、前年同月比は 20 社のデータと比較している。

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、年末繁忙期が終了したことや正月休みによって稼働日数が減少したこともあり、全般的に貨物量が減少した。理由としては、工場・生産地からの貨物減、季節的需要減であった。また、金属製品、食料工業品では倉庫から出る貨物減、日用品では商社・問屋からの貨物減、倉庫から出る貨物減、その他(宅配便、百貨店配送品)ではデパート・スーパーからの貨物減も見られた。地域的には、農水産品が東北、関東地方、中国、金属製品が北陸信越、近畿地方、機械が関東地方、中部地方、大阪、兵庫、中国、化学工業品が関東地方、愛知、大阪、繊維工業品、食料工業品、日用品、その他(宅配便、百貨店配送品)が関東地方を中心に、それぞれ減少した。

前年同月と比べると、化学工業品、食料工業品、日用品で工場・生産地からの貨物増が見られた。また、食料工業品では、倉庫から出る貨物増も見られた。一方で、繊維工業品では工場・生産地から出る貨物減、倉庫から出る貨物減が見られた。地域的には、化学工業品が近畿、食料工業品が中国、福岡を中心に増加した。一方で、繊維工業品が愛知、近畿、中国を中心に減少した。この結果、全体としては、対前年同月比 101.2%となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因		
	著増	増	変らず	著減					
前 月 に 比 べ て	農水産品			10	4	4	野菜、青果物	東北、関東地方、中国	4、8
	金属製品			18	8	1	建築用金属製品	北陸信越、近畿地方	4、7、8
	機械	1		15	10	2		関東地方、中部地方、大阪、兵庫、中国	4、8
	化学工業品	1	1	15	11	1	化学薬品、塗料、合成樹脂、その他の化学工業品	関東地方、愛知、大阪	4、7、8
	繊維工業品			22	4	3	糸、織物	関東地方、愛知、中国	4、8
	食料工業品			11	11	6	飲料、その他の食料工業品、加工食品	関東地方、北陸信越、近畿地方、中国	4、7、8
	日用品			12	12	5	書籍・印刷物、衣服、その他の日用品	関東地方、北陸信越	4、5、7、8
	その他			14	5	9	宅配便、百貨店配送品	関東地方、大阪、中国、全国	2、4、8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		2	15	1				
	金属製品	1	2	21	3			北陸信越	4
	機械		3	21	3	1	その他の機械	北陸信越	4
	化学工業品		6	20	3		合成樹脂	神奈川、関東、近畿	1、4、7
	繊維工業品		1	22	6		糸、織物	愛知、近畿、中国	4、7
	食料工業品		6	20	1	1	飲料、その他の食料工業品	関東、中国、福岡	1、4、7
	日用品		5	18	5		その他の日用品	関東	4
	その他		4	20	4		百貨店配送品	神奈川、関東、全国	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 807 社 / 調査対象事業者数 1,061 社）の輸送量は、前年同月比 101.6%、前月比 87.5%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	101.6%	104.0%	103.5%	99.5%	105.2%	100.5%	95.5%	101.5%	100.1%	101.4%	90.0%
前 月 比	87.5%	86.0%	89.8%	91.0%	86.1%	90.8%	83.8%	87.4%	88.9%	86.3%	84.3%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、前月に続いて冬季に伴う需要増により「廃棄物(排雪)」及び「その他の石油製品(灯油)」の輸送の増加が見られたものの、「野菜・果物」「その他の農産物」等農産物の輸送が終了したことにより減少し、工事の終了により、「砂利・砂・石材」等の工事関連資材の輸送が減少した。また、正月休みによる稼働日数の減少等から「食料工業品」の減少が見られた。このため対前月比 86.0%、対前年同月比は 104.0%であった。今後の見通しは、次月及び以降とも、横ばい傾向で推移するものと思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、季節的需要減、正月休み、大雪による輸送効率低下などにより「セメント」「食料工業品」「取り合せ品」等の減少が目立った。また、大雪の影響に伴う除排雪の需要増加により「廃棄物」の輸送が増加した。このため、対前月比 89.8%、対前年同月比は 103.5%であった。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横ばい傾向で推移するものと思われる。</p>
関東	<p>本月の輸送は、「その他の窯業品」の輸送の増加が見られたものの、お歳暮時期の終了により「食料工業品」、「日用品」の輸送が減少したのをはじめ、年末繁忙期が終わり、また正月休みによる稼働日数の減少に伴い、全体では対前月比 91.0%と減少した。対前年同月比は 99.5%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にあると思われる。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、大雪に伴う輸送効率の低下、正月休みの影響等により、ほとんどの品目で輸送の減少が見られたため、対前月比 86.1%となった。対前年同月比は 105.2%であった。今後の見通しは、次月及び以降とも、増加傾向にあると思われる。</p>
中部	<p>本月の輸送は、「その他の製造工業品(雑具等)」「機械」の輸送の増加が見られたものの、年末繁忙期の終了により「食料工業品」の輸送が減少したのをはじめ、正月休みの影響による輸送減が見られたことから、対前月比 90.8%と減少した。対前年同月比については 100.5%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともほぼ横ばいの傾向と見込まれる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、年末繁忙期の終了や正月休みによる輸送減が見られた。特に「日用品(チラシ等)」、「食料工業品」「取り合せ品」の減少が目立った。このため、対前月比 83.8%と減少した。対前年同月比は 95.5%であった。今後の輸送見通しは次月及び以降とも増加傾向にあると思われる。</p>
中国	<p>本月の輸送は、「工業用非金属鉱物」「紙・パルプ」「繊維工業品」に増加が見られたものの、「水産品」「木材」「セメント」の輸送量が減少した。理由としては正月休みによる稼働日数の減少、大雪による輸送効率の低下、漁獲量の減少などであった。このため対前月比 87.4%と全体的に輸送量が減少した。対前年同月比は 101.5%であった。今後の輸送見通しは次月及び以降とも増加傾向にあると思われる。</p>
四国	<p>本月の輸送は、建設関係の需要増により「セメント」の輸送が増加したものの、年末繁忙期の終了により「食料工業品」「取り合せ品」が減少したのをはじめ、正月休みに伴う稼働日数の減少により輸送が減少した。このため、対前月比 88.9%、対前年同月比で 100.1%となった。今後の輸送見通しは、次月は横ばい傾向、以降は増加傾向にあると思われる。</p>
九州	<p>本月の輸送は、建設需要の伸びにより「砂利・砂・石材」の輸送が増加したものの、年末繁忙期の終了により「野菜・果物」「食料工業品」「日用品」の減少が目立った。また、「その他の石油製品」は 12 月と比較して 1 月の方が気温が高かったことにより、灯油の需要減があったものと思われる。さらに、「動植物性飼・肥料」は南九州を中心に、季節的需要減により輸送が減少した。このため、対前月比で 86.3%と減少した。また、対前年同月比は 101.4%であった。次月以降の輸送の見通しは、次月及び以降とも減少傾向にあると思われる。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、「金属製品(建築用金属資材)」の微増が見られたものの、季節的需要減及び正月休みによる稼働日数の減少により、「野菜・果物」、「水産品」、「食料工業品(飲料)」、「取り合せ品」の輸送が減少したことから、対前月比で 84.3%、対前年同月比では 90.0%とともに減少した。今後の見通しについては、次月は横ばい傾向、以降は増加傾向にあると予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	5
	減	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
2. 野菜・果物	増	1	1	0	0	0	0	0	3	1	0	6
	減	4	2	0	1	0	1	1	2	8	1	20
3. その他の農産品	増	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	減	3	0	0	0	0	0	1	0	0	1	5
4. 畜産品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	4
5. 水産品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	3	1	1	0	0	1	3	0	1	1	11
6. 木材	増	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3
	減	6	1	0	2	0	0	3	1	2	0	15
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	減	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
9. 金属鉱物	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10. 砂利・砂・石材	増	3	1	0	1	0	1	0	0	7	0	13
	減	14	0	0	2	0	1	1	0	0	0	18
11. 工業用非金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	3
	減	1	1	0	0	1	0	0	0	2	0	5
12. 鉄鋼	増	0	1	0	2	0	1	0	0	1	0	5
	減	2	0	0	1	0	1	2	0	3	0	9
13. 非鉄金属	増	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	3
	減	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
14. 金属製品	増	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	4
	減	1	0	1	1	0	1	0	0	2	0	6
15. 機械	増	0	0	1	0	2	1	0	0	1	0	5
	減	0	0	3	1	1	2	2	1	1	0	11
16. セメント	増	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	5
	減	4	5	1	0	0	0	4	0	7	0	21
17. その他の窯業品	増	0	3	2	1	0	0	0	1	0	0	7
	減	2	1	0	2	1	1	2	1	0	0	10

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0
18. 揮発油	減	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	4
19. その他の石油製品	増	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	減	1	3	0	3	0	1	1	0	2	0	11
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 化学薬品	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3
22. 化学肥料	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	4
23. その他の化学工業品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	2	0	0	1	0	4
24. 紙・パルプ	増	0	1	0	1	2	1	2	1	0	0	8
	減	2	2	1	0	1	0	0	1	3	0	10
25. 繊維工業品	増	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
	減	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
26. 食料工業品	増	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	4
	減	3	8	3	3	2	4	3	3	8	1	38
27. 日用品	増	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	4
	減	6	2	5	0	0	4	5	0	7	0	29
28. その他の製造工業品	増	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0	4
	減	0	3	0	0	1	1	3	0	2	0	10
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	4	2	2	0	0	0	0	1	6	0	15
32. 廃棄物	増	15	4	0	1	0	0	0	0	0	0	20
	減	2	2	1	1	0	0	0	0	1	0	7
33. 輸送用容器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
34. 取り合せ品	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	6	0	0	0	2	0	2	2	1	13
35. その他	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	3	3	1	1	0	1	0	0	9